日本語教育関係者向け「やさしい日本語」セミナー

【開催報告】

「やさしい日本語」とは、普段の日本語を外国人が理解しやすいように言い換えた、簡単な日本語のことです。多言語対応に加え、多くの日本人が「やさしい日本語」のスキルを身に付けることは、外国人を受け入れる日本人側の意識改革を促すとともに、地域での交流や災害時の対応がしやすくなり、結果として地域活性化に結び付くことも期待されます。

そこで、８月 28 日（月）、「やさしい日本語」の第一人者である吉開（よしかい） 章（あきら）氏を講師にむかえ、県内の日本語教育関係者（「やさしい日本語」の基本的な理解がある者）を対象とした「やさしい日本語」セミナーを開催しましたのでお知らせします。

記

１　日時

令和５年８月 28 日（月）　13：30　～　15：00

２　場所

岐阜県庁３階　302・303 会議室（岐阜市薮田南２－１－１）

３　内容

〇演題：「やさしい日本語で、やさしい世界を。」

〇講師：吉開　章

・一般社団法人やさしい日本語普及連絡会　代表理事

・やさしい日本語ツーリズム研究会　代表

・柳川観光大使

〈主な内容〉

吉開氏は、セミナーの中で、多言語対応充実の必要性とともに、出入国在留管理庁の在留外国人対象の調査結果を挙げ、「日本語の会話がほとんどできないと答えたのはわずか 3.4％であり、やさしい日本語は、日本人が思っている以上に外国人とのコミュニケーションに有効である。」と話しました。また、「『**は**っきり言う』、『**さ**いごまで言う』、『**み**じかく言う』の「**ハサミ**の法則」を心がけるだけで、伝わりやすい日本語になる。」、「やさしい日本語は、障害のある方や高齢者に情報を伝える際にも有効である。」、などと述べました。

〈質疑応答における主なやり取り〉

・自分自身も、「やさしい日本語」についてセミナーの講師をしたことがあるが、一般の人に外国人にとっての言葉の「やさしさ」の感覚を伝えるのが難しい。どのように考えると良いのか。（日本語教育関係者）

→　よく知らないことは「やさしく」できない。まずは、知っていることを「ハサミの法則」で簡単に伝えることができればいいと考える。それ以上の難しいことは、各分野の専門家や日本語教師と連携して行う。このように２段階で考えると良い。

・「やさしい日本語」を普及するには何が必要か。（行政関係者）

→　企業など職場内での普及が一手だと考える。外国人に難しい日本語を強いることは労災やハラスメントにもつながりかねないので、「やさしい日本語」を使うことについて一定のルール化が必要ではないか。

・小中学校での、外国にルーツを持つ子どもの保護者へ情報伝達にあたり、「やさしい日本語」の活用が有効であると感じた。（教育関係者）

・英語の授業では、言いたいけど言えない言葉があるときにパラフレーズ（言い換え）をするように教えている。「やさしい日本語」の考え方と近い面があると感じた。（教育関係者）

４　参加者

・県（県民生活課、国際交流課、義務教育課、警察本部国際捜査課、ほか）
・市町村多文化共生担当者
・国際交流団体関係者
・日本語教育関係者
・多文化共生推進員　など　31 名

５　アンケート結果

非常に参考になった…21 名、参考になった…10 名（全 31 名）

・「やさしい日本語」と漠然としていたものが、具体的にどのように表現したらよいのか、何処に注意したらよいのか分かった。
・やさしい日本語は外国人だけでなく、障がい者、高齢者にも使うことができる言語であると思った。
・やさしい日本語を教育の場面でも広げていきたい。
・外国人に分かりやすく明確に伝えるという点に加えて、日本人同士でも意外に知らない伝え方のコツを知ることができた。

（セミナーの様子）